

度会町賞



文学部国文学科 2年  
大喜多 佑斗

<p><b>定住自立に関する課題</b></p>	<p>日本各地が少子高齢化などの人口減少の中にある中で、度会町もなお人口減少にある。RESASの調べで、2000年近くに第二次のピークを迎えた後、現在も減少し続けている。グラフでは減っているのが目で見て分かるが、なぜ減少しているのかわからない。地方が人口減少に陥った要因は、少子高齢化などもあるが私は地方から都市圏へ人口流出を重要視する。これから先、都市圏は高齢化が進む。老年人口は増加し、生産年齢人口、年少人口は減少していくだろう。地方に目を向けると、生産年齢人口、年少人口は減少したまま、今度は老年人口も次第に減少していくだろう。そうすると都市圏への人口流出は止まっていくかもしれないが、それは地方から人が消えてしまう事を意味する。東京大学大学院客員教授の増田寛也は人口減少のプロセスとして三段階に分けている。都市圏は第一段階、地方は第三段階としている。どうしても流出を止めなければいけない。一番止めなければいけないのは若者である。度会町人口ビジョンを見ても、転入者より転出者の方が多い。ではなぜ地方から都市圏へ流出してしまうのか。</p> <p>度会町は「度会町総合戦略のためのアンケート 調査・中学生アンケートおよび若者アンケート」に取り組んでおり、度会町の住みやすさの調査結果は中学生、16～18歳の若者いずれも約8割の人が、「とても住みよいまちだと思う」、「まあまあ住みよいまちだと思う」と答えている。これは重要な回答になる。しかし将来の居住意向の調査になると「度会町以外で住みたい」が急激に増える。その理由として一番多いのが、中学生が「将来働きたい場所が少ないから」で16～18歳の若者も7割が同意見だった。これは本当に大切な意見である。もう、なぜ人口流出するのかがはっきりしている。キーワードは仕事である。これが人口減少へと繋がっていて、悪循環が起きていると思われる。都市圏には働く場所が溢れかえっている。つまり人口が集中するわけである。</p> <p>私は働く場所が少ない事が人口減少に繋がっていると考えると同時に大きな課題であると考えている。</p>
<p><b>その課題解決に利用できる資源</b></p>	<p>私の考える上で必要になってくるのは、まず人を呼び込むことである。まず度会町の良さを知ってもらいたい。実際に来てもらい度会町の自然を知って、触れてもらう事が重要であると考えている。一番初めに頭に浮かんだのが、最近開通になった日の出の森の散策コースである。一回風力発電の工事をする前にいった事がありずっ</p>

	<p>といけず、もう一度行きたいとっていて先日行く事ができた。日の出の森という名前だが、ここは山の上で風力発電をまじかで見ることができ、何よりそこから見る事ができる宮川を含めた伊勢志摩地域の景色を一望することができる。これは有力な資源である。</p> <p>次に、空き家である。人口減少は今に始まったことではない。もう何年も前から始まっている。そうであるのならば、空き家は、地方ならではの強みである。度会町は空き家バンクというの創設している。総務省が出している「住宅・土地統計調査」で隣の愛知県、全国の平均と比べても三重県の空き家は明らかに増加している。この空き家は度会ビジョンの人口減少の影響の図 II-18 にも示されている。人口減少している事は、反対に空き家は増加する。空き家は、地方ならではのである。この空き家が、新しいお店、例えばパン屋など新しく活用することができる。</p> <p>次に、以前講義で度会町さんがいっていた、お茶やイチゴ、ブルーベリーや野菜などの収穫体験できるという事である。これは子供達にとっても、普段こういった体験をしない都市圏の人達にとってもいい刺激になるのではないかと考える。</p>
<p><b>あなたの考える解決策</b></p>	<p>解決策は、段階的になる。度会町人口ビジョンにあるように戦後、都市圏へ地方から多く人口が流出した。それは復興も兼ねた都市への労働力の供給である。人口減少にも関わらず今もなお、人口流出は続いている。戦後から現在まで、地方から都市圏への人口流出が続いてきた。いわゆる地方から都市への一方的な I ターン現象である。私の考えでは、現在までに至り地方から都市への矢印を逆向きにしようとするものである。つまり、「都市から地方へ」である。実際に、内閣官房のまち・ひと・しごと創生本部事務局が東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)在住の 20~50 代の 1 万人を対象に実施したアンケート調査をしていて、東京圏出身の人の約 5 割が地方暮らしに関心を持っている人がいるとわかっている。さらに東京圏以外出身の人で約 6 割が関心がある事がわかった。その理由として「豊かな自然環境がある」が最も多い意見であった。この結果は、非常に重要である意味でチャンスと言える。時代とともに都市圏に住む人たちの、意識、考え方の方向が地域に向いてきているという事である。つまり都市から地方へ意識が向いている。あとは、そこから新たな一歩を踏み出すかどうかは地方の取り組みにかかっている。おもてなし精神で迎え入れるしかない。実際に来ていただき、肌に触れてもらうしかない。ここで具体的にいうと風力発電が間近で見れる日の出の森である。ここは車で行く事ができ、標高が高い。大きな駐車場へとつながる、そこから見る景色は、自然に包まれて素晴らしく、贅沢で来てよかったと思えるほどの景色だった。そこから本格的な登山ができる道もある。しかし物寂しいものも感じた。看板の少なさや、見つけた時は文字が小さく分かりづらいところもあった。私は、小学生の頃授業の一環として登山がありよく登った。卒業記念品として頂上へと続く手作りの看板をいくつも作ったのを覚えている。いくつかの分岐点も迷わず進める。そこで個人的な意見として度会町の子供達で協力して手作りの看板や案内板などを作ってみたらどうかと考える。その</p>

駐車場には、ツーリングで来た人や車が二台がいた。そこで老夫婦が読書やコーヒーも飲んでいた。素直にいいなあと思いつつ、これがきっかけで一つ思った事がある。ここで自分の場合だったら課題、社会人であれば仕事ができたらどんなに贅沢だろうか。心機一転集中できるのではないかと思った。「仕事」というワードから思い出したのが現在、コロナの渦中にありよく耳にするようになったリモートワーク、テレワークである。これは、実際に職場に行かなくても、いってみればどこでもできるはずである。度会町でテレワークができれば、メリットは多くある。私が求めている実際に来て肌に触れる事ができる。仕事が終われば、すぐそこには景色があり、山があり、川があり、生き物がいて自然が溢れている。家でずっとテレワークばかりでは、当然ストレスは溜まる。「心機一転・ワーク IN 度会町」である。

私は、この「移動してどこでもできる仕事」という点から、実際にこういった仕事でコロナに関係なく存在するのではないかと思う。これからの時代、オフィスでもり仕事をする時代からどこでも仕事ができる時代が変わっていくのではないかと考える。そこで調べていて新たに知ったのは、「サテライトオフィス」の存在である。企業の本社・本拠地から離れた場所に設置されたオフィスのことで「都市型」「郊外型」「地方型」の三種類あり自然に囲まれた環境で人間らしい生活の実現などが期待されると WARK×IT のホームページに記載されている。こういった地方へオフィスをおく方法で、サテライトオフィスが注目されている。こうした方法で徳島県神山町が 2011 年に人口の転入が転出を上回り、町史上初の人口社会増となったとクラウド Watch の記事に書かれていた。こうした事業に取り組む事で、次第に地方へ新たな仕事が増えていく事が期待できる。しかし神山町ではサテライトオフィス集積を目的としておらず、質を重視して地方創生に取り組んでいる。度会町であれば、お茶をはじめ、イチゴやブルーベリーなど資源は多くある。オフィスが必要になってくるが、次に私が考えるのが空き家の利用する事で、つまり利活用である。オフィスの新たな建設費は要らず、空き家が仕事ができる場になる。事例として、多くあるがお試しとして実施しているところもある。例えばスマートワーク総研が掲載していて、福井県鯖江市も取り組んでいて企業も自治体も WinWin と記載している。私はこの取り組みが実現したら本当にいいなと思うし、将来が明るいなとも思う。もしこの取り組みが実現し、情報ネットワークを活用し広まるならば、次第に企業も増え、中学生や若者が求めている働く場所が増え、人口流出が止まるのではないかと考える。これは今回の課題である「働く場所がないから」の解決につながるのではないかと考える。さらに、こうした取り組みをしている事を都市へ、全国各地へ PR していく事で、地方へ関心を持っている人たちを引き込ませる事ができるのではないかと思う。ここまでが私の考える解決策である。

最後に、度会町人口ビジョンにも書かれていたように地方と都市圏との連携は不可欠でとても重要なものだと思うし、これから先人口が増えるか減るかは実際に行動に起こし取り組むという事が重要だと思う。

## 参考書籍等

- 度会町人口ビジョン  
<https://www.town.watarai.lg.jp/cmsfiles/contents/0000001/1420/jinnkou.pdf#search=%27度会町+人口%27>
- 4つの最新事例から読み解く、地方の人口減少を解決するための対策  
<https://www.nice2meet.us/how-local-cities-increase-their-population-and-how-to-do-so>
- 初の人口社会増、相次ぐ視察——地方創生「神山の奇跡」はなぜ起きた？  
<https://cloud.watch.impress.co.jp/docs/case/700175.html>
- 空き家を活用しサテライトオフィスとして誘致～企業も自治体もWinWin  
<https://swri.jp/article/258>
- 「地方暮らし」に5割関心—内閣官房調査：検討の理由は「豊かな自然」  
<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h00741/>
- 調査レポート社会問題化する空き家の増加  
～空き家増加の背景と解消に向けた取り組み～  
[https://www.miebank.co.jp/33ir/chousa/201707\\_c1.pdf#search=%27度会町+空き家+割合%27](https://www.miebank.co.jp/33ir/chousa/201707_c1.pdf#search=%27度会町+空き家+割合%27)
- RESAS  
<https://resas.go.jp/#/24/24470>
- サテライトオフィスとは？メリットとデメリット、事例を含め解説  
<https://workit.vaio.com/i-satellite-office/>
- 「選択する未来」委員会提出資料 人口減少問題と地方の課題  
[https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0130/shiryou\\_09.pdf#search=%27人口問題+地方+都市%27](https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0130/shiryou_09.pdf#search=%27人口問題+地方+都市%27)